

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.165

発行:平成 29 年 4 月 1 日

※期間中随時受付

講習会のご案内 (お申込み・受付は前月の 20 日から)

「観葉植物の植替え」-シヅカ、ゴムノキなど- (実費)

とき 平成 29 年 4 月 16(日)~20 日(木)1 人5鉢まで

午後 1:30~3:30 定員各 10 名

講師 緑のセンター相談員

「洋ランの植替え」-シンビジウム-1 人2鉢まで (実費)

とき 平成 29 年 4 月 22 日(土)

午後 1:30~3:30 定員 20 名

講師 緑のセンター相談員

「洋ランの植替え」-コチョウラン他-1 人2鉢まで

とき 平成 29 年 4 月 23 日(日) (実費)

午後 1:30~3:30 定員 20 名

講師 緑のセンター相談員

「神楽岡公園・春の自然観察会」-小学生以上-

とき 平成 29 年 5 月 7 日(日)春の野草を探そう

午後 1:30~3:30 定員 20 名

講師 旭川帰化植物研究会代表 塩田 惇さん



「山野草寄せ植え」 ② ¥1,000

とき 平成 29 年 5 月 28 日(日)

午後 1:30~3:30 定員 20 名

講師 園芸家 森下 光晴さん



【連続講座のお知らせ】全講座に参加できる方 (①、②、④は午後 1:30~3:30) ※③は 10:00~12:00

①「種を播いて夏のサギソウと翌春の

ハンジーを楽しむ講座」全3回 ¥1,000 20 名

~サギソウの生涯学習と種まき実習~

4月 15 日、7月 15 日、9月 23 日(土曜)

②「プランターで育てる野菜づくり」

全4回 ¥2,000 20 名

~菜園の準備と種まき・果菜類の鉢上げ~

4月 29 日、5月 27 日、6月 24 日、7月 29 日(土曜)

③「温室で写真教室」10時~12時

4月 30 日、5月 7 日、21 日(日曜) 全3回

~基本、撮影会、トリミング講習など~

講師:北海道写真協会 20 名 無料
旭川支部長 馬場 和美さん

お知らせ



NEW ④「初心者がコンテナで育てるベビー野菜づくり講座」 全3回 ¥2,000

5月 13 日「根物野菜の種まき」 6月 3 日「欠き葉収穫・葉物野菜の種まき」(土曜) 10名限定

7月 8 日「一括収穫・葉物野菜の種まき」 ※今まで経験のない初心者のための講座です



展示会のご案内 (初日は午後から、最終日は4時まで)

「野の花写真展」4月 1 日~23 日

「ミニ盆栽展」 5月 12 日~14 日 「山野草展」5月 26 日~28 日

【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・第4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月~ 3月は毎週月曜日が休館日です。(")

「サツキの展示会と相談」

5月 26 日~28 日

10:00~16:00

相談:随時・無料

旭川さつき会



〈園芸の基礎知識〉 根の障害

～根に障害が発生する原因と対策～

株に元気がなく根が黒く変化している。葉が黄化し、茶色に変化して落ちる。茎や幹が柔らかくなっている。土から腐敗臭がして、表面に白いカビが生えている。などの症状がある場合は、根に障害がある恐れがあります。

■根圏(根の周りの環境)の微生物

土壌中には1g当たり数百万～数億の微生物が生息しています。これら植物病原菌や成長を促進する微生物などが絶妙なバランスを保って植物の生育に大きな影響を与え、有害な微生物が侵入する抵抗力を持っています。これらの微生物の活動は、土壌中の有機物を分解し、植物が吸収しやすい形態に変化させます。また、最近では植物体に生息した病害に抵抗する機能を持つ微生物の存在により、窒素や糖分などをやりとりしながら植物の免疫機能を活性化させるという報告があります。

■根ぐされ症状の原因

根の障害の典型的なものは根ぐされ症状です。この原因は、土壌中の酸素不足が主な原因です。酸素不足になると酸素が少ない環境を好み、根ぐされを助長させる菌が増殖します。これには、いくつかの要因があります。

水やりの頻度が多く、土の水はけが悪い。過度の施肥や冬期間の施肥などで肥料ヤケが発症しやすい。酸素不足が続いて嫌気性菌が増加するなどです。

根ぐされ症状の対処法としては、黒ずんで腐った根はもとに戻りませんので、ハサミなどでカットして取り除きます。株全体のバランスを考えて、地上部の葉も適度に切り落とします。そして植物を植替えて株の状態を整えなければなりません。

(参考資料: NHK 趣味の園芸「園芸入門」ほか)



根ぐされした植物の根

緑の相談 Q&A (39)

室内の鉢植えしている多肉植物などの一角からコバエが発生しています。

見つけては潰すのですが・・・キリがないので何かいい方法はないものでしょうか？

コバエは小さなハエの総称で、「コバエ」というハエはいません。

ショウジョウバエ、ノミバエ、チョウバエ、クロバネキノコバエなど、たくさ

んの種類があって、それぞれに生態があって、見た目には似ていますが、室内では駆除が難しい昆虫です。人や植物に直接害を及ぼすものではないので、不快害虫として扱われます。

おたずねのコバエは室内の鉢植えの多肉植物から発生しているということですので、キノコバエの仲間であるクロバネキノコバエ類の昆虫とされます。

体長は2mm程度、体色は黒色～黒褐色。肉眼で種の同定はやや困難です。幼虫は朽木の腐った部分や有機物を多く含む土壌中に生息して腐食物や植物の根を食しながら成長し、成虫は灯火に誘引される性質があり、成虫の寿命は1週間程度です。20℃前後で羽化します。羽化後2～3日で産卵を開始し、数卵塊に分けて計60～80個の卵を産みます。卵期間3～4日、幼虫期間15～20日、蛹期間3～5日なので次から次へと発生します。

室内なので、むやみに薬剤を使用できませんが、発生源の鉢物を特定し、室内を十分換気するか、鉢物を外に出して市販の低毒性殺虫剤を散布します。これを何回か防除します。駆除作業にあたっては危害防止には十分に注意してください。

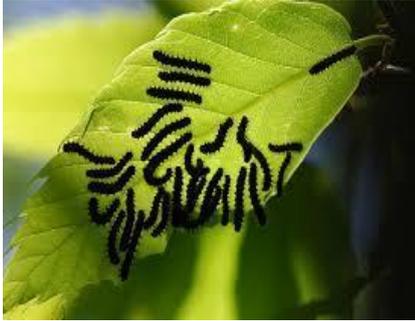
(参考資料: 北隆館「原色昆虫大図鑑」、Wikipedia)



クロバネキノコバエ類

植物の病害虫

その36 「クスサン」



若齢幼虫



成虫



住宅にも侵入

1 寄生しやすい植物

幼虫の食樹は、その名が示す通りクスノキも食樹しますが、クリ、クルミ、クヌギ、コナラなどの団栗の類やウルシ、ハゼ、ヌルデなどの漆の類、ケヤキ、カエデ、トチノキなどの広葉樹、さらにサクラ、リンゴ、ウメ、ナシなどバラ科の果樹、イチヨウやプラタナスなどの街路樹など、鱗翅目の中でも際立って広範囲な食性を持っています。

2 被害

幼虫が葉を食害します。6月頃、黒い毛虫が新葉の裏側に群がって食害します。成長するにつれて分散して食害します。被害葉は葉の縁から食害され、太い葉脈だけが残ります。若・中齢期の食害量は比較的少なく、老齢期になると暴食し、わずかな間に全葉を食いつくして他の樹へ移動するので、多発した場合には数本の樹が丸坊主になることもしばしばあります。幼虫は齢期によって体色が変わり1～3齢幼虫は黒色で白い毛がまばらに生えています。4齢幼虫は淡緑褐色になり、灰黄色の長い毛が生え、体の側面に黄色い線があります。5～7齢(終齢)では体の表面が黄緑色で背面は青白色になります。全体に白～青白色の長い毛がたくさん生えています。老熟幼虫は体長8～10 cmです。繭は「スカシダワラ」と呼ばれて、褐色階円形で、その中の蛹は茶褐色です。成虫は翅を開いた大きさが約 13 cmの大型の蛾です。前翅は黄褐色、赤褐色、灰褐色など色の変化があります。翅には波形の線と、中程に紫白色の眼状の紋があります。卵は灰白色俵状で、地上2mまでの幹や太枝に数十個ずつかためて産みつけられます。

3 生態

年1回発生し、卵で越冬します。越冬卵は5月下旬～6月上旬に孵化し、孵化直後の幼虫は群がって葉を食べますが、成長するにしたがって分散します。幼虫期間は約2か月です。幼虫は6～7齢を経て、7月下旬頃に荒い繭(スカシダワラと呼ばれている)をつくってそのなかで蛹になります。成虫は9月上中旬頃に発生して、枝や幹に産卵します。成虫は夜行性で灯火によく集まります。クリでは恒常的に発生する害虫であり、時折大発生して葉を暴食します。

4 防除法

卵は、冬季間に潰すか掻き落として焼却します。産卵される位置はほぼ2m以下なので、金属のヘラ等で容易に卵塊の掻き落とすことができますが、掻き落としただけでは効果がありませんので、確実に焼却処理することが必要です。卵殻が硬いのでていねいに潰します。また、孵化した幼虫は葉裏に群生することが多いので、この枝を見つけて切り取り、焼却することが効果的な防除になります。防除薬剤としては、PAP(商品名:エルサン)乳剤がクリの「モモノゴマダラノメイガ」に1,000倍で登録があります。

オリヅルランと遊ぼう

キジカクシ科 オリヅルラン属 南アフリカ原産 常緑多年生植物



オリヅルランは、名前に「ラン」とつきますがキジカクシ科に属する多年草でランではありません。花は小さくて目立ちませんが、春～夏にかけてランナー(ほふく茎)と呼ばれる細い茎の節から素朴で可愛い白い花を咲かせます。また、凛とした葉が美しいことから、しっかり育てて大きな鉢で茂らせたり、ハンキングでふんわり垂れ下げる。あるいは寄せ植えや水耕栽培、コケ球などにチャレンジすることもできるので、園芸ビギナーには一押しの観葉植物です。

さらに、美しい葉も多様で、葉幅が広いものと細いもの。「斑」が入るものと入らないもの。「斑入り」でも「斑」が葉の中央部や縁に入るものなど。加えて、一般にオリヅルランはランナーの先端に子株を付けて増殖します。この様子が「折り鶴」をぶら下げているようなのでオリヅルラン(折鶴蘭)の名前がついていますが、ランナーを伸ばさず、葉の幅も広くて短いタイプ(シャムオリヅルラン)もあり、マニアックに変化を楽しむ事も出来ます。

栽培のポイント

- ①日当たり・置き場所……耐陰性はあるが真夏以外は日光によく当たった方がよく育つ。寒さには比較的強く、霜に当てなければ3℃位まで(シャムは 10℃以上)枯れることはないが、晩秋には室内に取り込む。
- ②水やり・肥料……乾燥には比較的強い。水やりのポイントは、夏は底から流れ出るくらいたっぷり、冬は土が乾いて3～4日後、控えめ。肥料は緩行性(効き方がゆっくり)の肥料を5～9月にかけて1ヶ月に1回、株元に。冬は肥料を与えない。
- ③植替え・増やし方……植替えは、水はけが良く肥えた用土(例:赤玉土小粒5、腐葉土3、軽石小粒2の混合土など)で、できれば毎年。増やす場合は、生育がよく、葉が8枚以上付いている子株をランナーから切りはずして、用土を入れた小さめの鉢に植え付ける。ランナーがでないタイプの品種(シャムなど)の場合は、地際の芽を一株に3芽以上付けて切り分けて株分けする。いずれも適期は5月から9月。

展示室の植物 (72)

アンズリウム(別名 オオベニウチワなど) 学名: Anthurium サトイモ科ベニウチワ属

春の神楽岡公園の風物詩の一つに「ミズバショウ」の群生があります。別名「ベコノシタ」とか「ヘビノマクラ」と云われて親しまれていますが、「汁に触ると被れる」とか「食べると毒がある」とか……。一方、アンズリウムは北方系・南方系植物の違いがあるものの、ミズ



バショウと同じサトイモ科の植物で、花も同じように肉穂花序、仏炎苞があって独特の姿をしています。熱帯アメリカを中心に 600 種以上が分布し、地面に根を下ろす地生種や樹木などに張り付いて生長する着生種がある他、直立性や、つる性のももあります。また、花びらの役割を担う仏炎苞には赤や白、紫、ピンク、緑、黄緑などがあり、鑑賞価値が高く切り花や鉢花として利用されています。